

渡辺ゆり子の県政報告

日本共産党山形県議団執務室
Tel 050(3666)1542

ご意見・ご要望をお寄せください

県議会9月
定例会特集

国連が核兵器禁止条約を採択

渡辺県議「日本政府も署名を」



吉村美栄子知事は「核兵器のない世界の実現は恒久平和の実現につながり人類共通の願い。政府は唯一の被爆国という立場から、是非リーダーシップを」としました。最後にあらためて渡辺県議は「政府も署名を」と強く申し入れるべき」と主張しました。

7月7日、国連会議は、特別委員会でのことを取人類史上初めて、核兵器を違法化する核兵器禁止条約を122か国の賛成で採択しました。条約に反対した日本政府に被爆者をはじめ国内外に怒りと失望が広がっています。「県としても核兵器廃絶を求め、知事の見解を問いました。渡辺ゆり子県議は、予算発信し、広げる努力を」と

吉村知事
「唯一の被爆国、リーダーシップを」

県議会9月定例会が9月21日から21日間開催されました。10月2日、予算特別委員会で渡辺ゆり子県議は「核兵器禁止条約」「国民健康保険税」「アルコール健康障害対策」「学力テストと教員多忙化」について取り上げました。その内容をご紹介します。9月議会では放課後児童支援員の処遇改善などを含む補正予算に賛成しました。

国民健康保険税

渡辺「知事、重い負担を認識されていますか」

保険者別 保険料負担率	(%)
市町村国保	9.9
協会けんぽ	7.5
組合健保	5.7
共済組合	6
後期高齢者	8.3

出典:厚労省HP

山形県国保の一人当たりの保険料負担率

年度	率 (%)	全国 (高い順)
2015	12.8	12位
2014	13.1	2位
2013	12.5	12位
2012	12.4	12位

※保険料負担率…加入者一人当たりの平均保険料を一人当たりの平均所得で割ったもの。率が高いほど、税負担感が高く、山形は全国で12番目

吉村知事は「国保は加入者の多くが所得の低い高齢者。保険料負担感が高い」と認めました。また、新制度で政府が予定する3400億円程度の支援では「十分とはいえない」との認識を示し、政府要望への意気込を語りました。一方、渡辺県議は、市町村が、国保に独自の財政支出(国の子どもの医療費など)に関わるペナルティ分)をしていることをとり上げ、県も独自支出をと求めました。



高すぎる保険税(料)の引き下げなどを求める要望を県に提出する渡辺県議ら(2017年10月、県議会)

吉村知事「負担感が高い」

山形県は、市町村の国民健康保険事業を県との共同運営で進めようとしています。県民から高いとの声がある国保税。今後「保険税がどうなるのか」との不安の声が出始めています。渡辺県議は、国保税の引き下げを求め予算特別委員会で国保を取り上げました。↓

渡辺県議は国保は他の健康保険に比べ「保険料負担率(※)が高い」と指摘し、協会けんぽ並みにするには1兆円の国費投入が必要との議論を紹介。また、県国保の一人当たりの保険料負担率は、全国12位と高い水準であることを明らかにし(左表参照)、知事の認識と国にさらなる財政支援を要請すべきと求めました。

県立図書館

資料費全国45位

渡辺県議「あまりにひどい」

県は来年度から、県立図書館を単独事業で10億円規模の大規模改修を予定しています。詳細は明らかになっていません。一方で、県立図書館の資料費は年々減少傾向です。

渡辺県議は11月10日、子ども若者支援対策特別委員会で「読書環境が大事」として県立図書館の図書費の全国順位を問いました。県は全国45位と答弁。渡辺県議は「あまりにひどいのではないかと充実を求めました。」

県立図書館の資料費の推移

山形県	高橋県政	斎藤県政	吉村県政
年度予算	2004年度	2008年度	2016年度
資料費(万円)	3,955	2,721	2,241
全国順位	42位	44位	45位

データは日本図書協会のHPから 順位は独自のカウント
高橋・斎藤県政の各年度は任期中最後の予算編成年度

山形県立図書館水準 これでもいいの？

蔵書数(冊)	延べ床面積(m ²)	資料費(万円)	職員専任	専任うち司書
683,846	6,085	2,202	20人	4人
44位	41位	44位	37位	45位

出典:図書館雑誌2017.8(日本図書館協会)から作成
データは2017年4月1日現在 順位は独自カウント

アルコール健康障害対策

県計画の策定を

適度なアルコール飲酒はリラックス効果など生活を豊かにしてくれます。しかし、多量の飲酒、未成年の飲酒、妊娠中の飲酒は、心身の障害を引き起こす恐れがあり、暴力・虐待・うつ病・自殺・飲酒運転・犯罪など社会問題になる危険もはらみます。

2014年アルコール健康障害対策基本法が施行されましたが、県計画は努力義務とされています。

渡辺県議は、予算特別委員会でこの課題をとりあげ、住民相談の経験から「健康を害するだけでなく、貧困や家庭崩壊に至るケースや暴力事件を起こし、孤立して亡くなり、お母さんが苦勞したことなど、見聞き」したことを挙げ、努力義務となっている県計画の策定を求めました。

県は「病気になるリスクを高める量以上の飲酒をしている方は多く、依存症入院患者数はここ数年横ばいで推移している」とし、依存症など正しい知識の普及啓発などを盛り込んだ計画を策定することを表明しました。

学力テスト競争

ガクテ競争は

「学ぶ喜び」を奪い、子どもが傷つく

知事と県教委は全国学力学習状況調査(いわゆる学テ)の結果を受け、「愕(がく)然とした」「危機感を持って」「このままでは教育県などとはとても言えない」などと発言しています。



一方、こうした発言に県民から「県の学力観が細くなっていることに愕然とした」との指摘があります。

教育現場の教員からは「学テ対策に力を入ると点数が取れるドリル練習などに集中し、授業で培われる『学ぶ喜び』が奪われる」「休み時間や春休みに宿題をたくさんさせ、子どもたちから『休み』を奪っているのでは」との意見もでてきます。

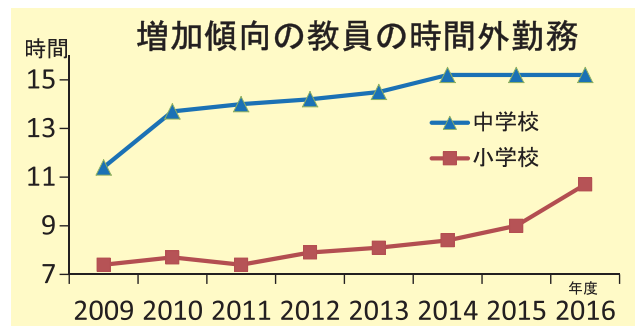
渡辺ゆり子県議は、10月2日、予算特別委員会でこの声を紹介し「学テで測れるのは学力の一部。文科省も過度な競争につながらないよう2度通知を出している」「学テの平均正答率は、必ず平均以下がある。子どもがそう評価されれば、傷つく」と主張し、県の姿勢に警鐘を鳴らしました。

本当に学力を確かなものにするには、じっくり考えたり、議論したりすることが大切です。

教員の多忙化にこそ危機感を

教員の多忙化が深刻となっています。「学力向上対策会議によって、教員が子どもたちと接する時間、授業の準備時間を奪っている」との教育現場からの指摘も出始めています。

渡辺県議は、県が実施している教員の勤務実態調査(下表)を取り上げ、「教員多忙化」にこそ危機感を持つことが必要と質問。県教育長は「危機感がある」と答弁しました。



出典:勤務実態調査(山形県)調査は土日を含む一週間。持ち帰りの時間は含まない。現場から「調査が一番忙しくない時期に行われる。実態を反映していない」との批判もあります

少人数学級の充実を

教育は教師と子どもとの人格的接触を通じて、個性に応じて行われます。教育の充実は先生を増やしてこそ行われるべきです。

渡辺県議は、教員の定数改善を求め県の少人数学級について知事に質問。吉村知事は、少人数学級のよさについて、不登校などが非常に少ないと評価しつつも、拡充には言及しませんでした。